

◇ 駅間停車列車における乗客の早期救済に係る取組みについて

黒字:「大規模地震発生時における首都圏鉄道の運転再開のあり方に関する協議会」報告書に記載のある項目
青字:今回初めて取り上げる項目

主な課題	課題への対応(例)
<p>○ 乗客の避難誘導に時間を要した。</p> <p>※ 夏期の猛暑時における通勤時間帯に停電を伴う状況で、長時間停車が見込まれる場合の乗客対応は特に検討を要する。</p>	<p>【列車での移動】</p> <p>○ <u>揺れの少ない区間では、安全確認のために列車を低速で走行させながら、乗客を最寄り駅まで移動させる。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>地震計の増設や気象庁をはじめとした他機関の地震計情報の活用により地震の強さをきめ細かく把握して、徒歩による施設の安全点検が必要な範囲(揺れの大きい区間)を絞り込み、揺れの少ない区間では、安全確認のために列車を低速で走行させながら、より多くの乗客を最寄り駅まで移動する。</u> ・ <u>なお、列車による移動区間を設定するにあたっては、上記の地震の強さとあわせ、施設の耐震補強の状況や周辺の建造物の状況等、当該施設を含めた沿線の安全性について十分に考慮する。</u> ・ <u>停電に備え、車両や変電所に非常走行用蓄電池を整備する。</u> <hr/> <p>【降車・誘導の迅速化】</p> <p>○ <u>乗客の協力を得ながら迅速に降車誘導を実施するとともに、降車・誘導に必要な設備を車両や駅等に配備する。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>当該列車に乗り合わせた関連会社や他事業者社員などの鉄道関係者等の乗客に降車誘導の応援を要請する。また、必要に応じて一般の乗客の協力も得る。</u> ・ <u>駅や踏切が近くにあるなど避難経路の安全が乗務員だけで確保できる場合には、応援係員を待たずに降車誘導を開始する。</u> ・ <u>車両の編成両数に応じて乗客の降車に必要な梯子や照明等の設備を車両や駅などに配備する。</u> <p>○ <u>非常時に円滑かつ迅速な対応ができるよう、一般の乗客の協力を得ながら降車・誘導する場合も含め、実践的な訓練を関係者とともに定期的実施する。</u></p> <p>○ <u>トイレのない車両には簡易トイレや遮蔽シート等を配備する。</u></p>

◇ 施設の安全確認等、早期の運転再開に係る取組みについて

黒字:「大規模地震発生時における首都圏鉄道の運転再開のあり方に関する協議会」報告書に記載のある項目
 青字:今回初めて取り上げる項目

主な課題	課題への対応(例)
<p>○ 施設の点検に時間を要した。</p>	<p>【施設点検の時間短縮】</p> <p>○ <u>点検・復旧する係員が現場まで迅速に移動するための移動手段を充実させる。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 協力会社を含め<u>緊急通行車両を増備する。</u> ・ 道路渋滞等の発生を考慮し、<u>軌道自転車やパンクレス自転車等を増備する。</u> <p>○ <u>徒歩による点検を要する箇所を絞り込み、施設の点検時間を短縮する。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>地震計の増設や気象庁をはじめとした他機関の地震計情報の活用により地震の強さをきめ細かく把握し、徒歩による施設の安全点検が必要な範囲(揺れが大きい区間)を絞り込むことにより、施設の点検時間を短縮する。</u>
<p>○ 試運転列車による最終的な安全確認に時間を要した。</p>	<p>【安全確認の時間短縮】</p> <p>○ <u>試運転列車による安全確認の時間を短縮する。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>複数の列車に対して、運転指令から同時に一斉に情報伝達することができるシステムを導入すること等により、試運転列車による安全確認を円滑かつ速やかに実施する。</u>